

香取遺産

Vol. 58

「水上遊覧飛行」

高価でお洒落な空の旅



▲映画会社松竹が宣伝用に水上飛行機を特別に飛ばした時のもの

午前9時、銚子河口から水上飛行機が発進離水します。

向かうはわが街香取。とうとうと流れる利根川を眼下に見下ろし、右下には水田が朝日に照らされて光り、左側の台地には豊かな森や畑が見え、遠くには筑波山も見えます。次第に与田浦の湖面が見え水郷大橋の手前、小野川河口の利根川中洲付近に着水します。時間にして約15分の水

上遊覧飛行の旅です。これは、市が計画している事業の青写真？いえいえ、実は今から約80年前の昭和初期ころに市内の有志たちで始めた大利根遊覧飛行というから驚きです。銚子から佐原まで15分、大人1人片道10円。佐原から鹿嶋上空が8分5円でした。土浦―佐原間約3時間の水上遊覧の船賃が1円20銭

だったので、相当高価な遊覧飛行といえるでしょう。1日に1往復、行きは銚子を9時に出発、帰りは16時に佐原を出発しました。その間の時間を使い鹿嶋に遊覧飛行を行っていました。

当時、空から見た水郷はどんな風景だったのでしょうか。春は水田の水面が銀色に輝き、夏は稲穂が緑の絨毯のように、秋は稲の実りが金色のように見えたのではないのでしょうか。

雄大な利根川と広大な水田、遠くには筑波山、運がよければ富士山までも見渡せた。そう考えるだけでもワクワクし、とても洒落た高級遊覧飛行だったと思われま

す。また、この時期は、水郷観光を楽しむため、多くの観光客が訪れました。

昭和2年「日本八景二十五勝」の選定で、二十五勝に利根川が選ばれ水郷の名が全国に知れ渡り、昭和6年、大型水上遊覧船さつき丸とあやめ丸が就航します。

昭和9年、J O A K（ラジオ放送）にて初の生放送で水郷が紹介され、昭和11年水郷大橋が架橋され、今まで船でしか行き来できなかったものが、バスや車による観光に拍車がかかり、まさに水郷観光の黄金期を迎えることとなりました。

※水上プロペラ機は、敗戦により燃やされ、今ではわずかにプロペラが数枚残るだけとなり、現在は、県立中央博物館大利根分館で保管されています

問い合わせ

伊能忠敬記念館 ☎(54) 11118